

## は し が き

この集録は、本年度における「理科定期研修」の研究成果をまとめたものであります。

「理科定期研修」は、当教育センターが実施している研修事業の一環であり、研修員と所員が一体となって行う共同研究の形をとっております。すなわち、この研修は小・中・高校における「新しい理科教育の実践」を主題として、いくつかのチームを組み、当教育センターの研究を基にしながら、研修員の勤務校において授業研究を行うシステムとなっております。これらの研究をとおして、学習指導要領にもられた教材の自然科学的意味を検討し、それを、理科教育の場で具体的に展開する際の問題点をさぐり、実践的に追求していくのがねらいであります。

共同研究としての「理科定期研修」を始めてから早くも7年を経過しますが、本年度もまた多数の応募者から選ばれた小・中・高校18名の研修員を迎えて実施いたしました。

昨年までの研究は、「基本的な科学概念は何か」という確認の上に立って、「探究の過程を重視した基本的科学概念の育成」、「探究の過程をとおして科学の方法を身につけさせるためには、どのような指導が必要か」、あるいは「データの解釈やモデル形成など、科学の方法の諸要素が日々の授業の中にどのような姿になって現われてくるか」などの実践的な主題をとりあげてきました。

今年度は、これらの中から、それぞれのテーマに即して「学年のつながりを考え、基本的な科学概念やその芽ばえをどう育てていくか」、「児童一人ひとりという視点から見なおした場合、問題解決をとおして科学の方法を修得させるための手だてはどうか」などの観点で追求しました。したがって、ここに収めた小学校関係の3編の論文は、いずれも今後の理科の授業や教材研究に、直接または間接に役立つものと信じます。また、これからの県および地区理科教育センターの講習にも、できるだけ活用していきたいと考えます。

なお、これらの研究は紙面の都合で、その意とするところをじゅうぶんに尽すことができないものもあり、また、内容については至らない点多々あることと思います。率直なご批判とご指導を賜わることができれば幸いです。

おわりに、校務多忙にもかかわらず、この研修に参加され、終始熱心に研さんされた研修員の方々の努力と熱意に対して深く敬意を表します。さらに、研修員所属校の校長先生はじめ諸先生からいただいたご支援とご協力に対し、心からお礼申し上げます。

昭和50年1月20日

新潟県立教育センター所長 竹内 豊治